

「日々の理科」(第2444号) 2021,-3,21 「ウェザーステーションの設置(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

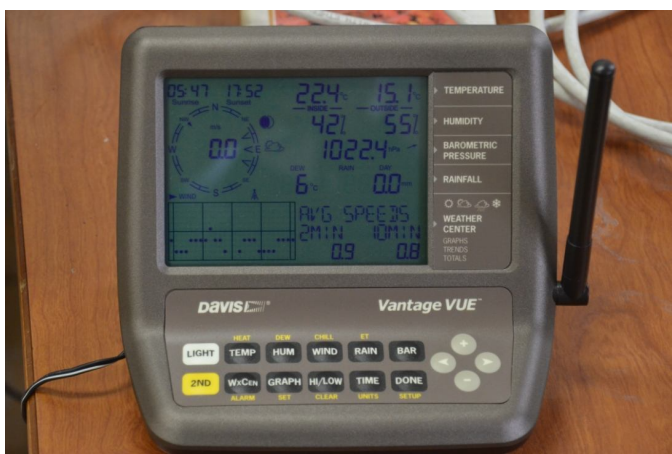
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

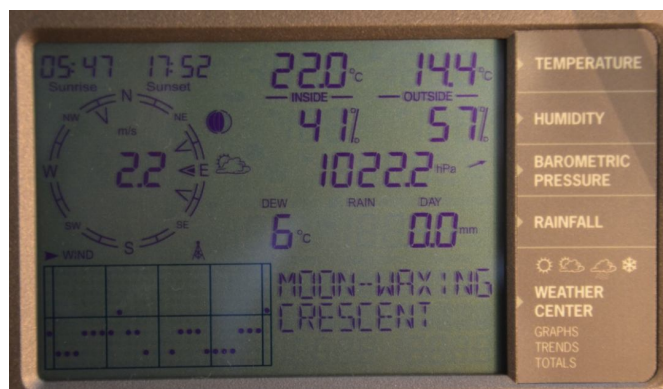
観測機器の設置は一応終わった。あとは、受信機側の設定である。このウェザーステーションはアメリカ製で、一応日本語の簡単な説明書もついているのだが、詳しい説明文はすべて英語である。ここは理科室の教務補佐の院生さんに任せることにした。この方は物理学の論文を英語で書けるほどの実力者だ。



設定項目は意外にも多岐にわたり、観測地の緯度、経度、標高などを入力していく。緯度・経度など気象観測には関係なさそうに思ったが、この機器の表示には、日の出や日の入の時刻、月の形状(月相)まで表示される。その為の基本情報として緯度・経度が必要なのだ。



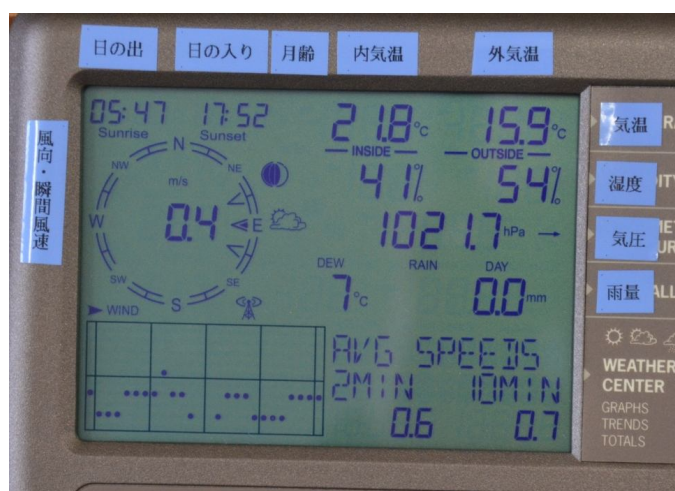
すべて入力すると、さっそく観測機器(センサー)からの電波を受信して、液晶画面に情報が表示された。こういう時に出る声は「お~~~~！」である。この時も「お~~~~！」と言ったような気がする。



左上が日の出、日の入の時刻(現在時刻の表示も可)、その下が現在の風向、風速、右列上から気温・湿度(屋外・室内)、気圧、雨量の表示だ。露点温度も表示される。一番下には各項目のグラフ表示や、天気予報、2分間・10分間の平均風速なども表示可能だ。



観測機器は屋上(5階に相当)、理科室は3階で、水平位置もかなりずれているが、電波はしっかり受信している。小型で設置も簡単だが、なかなか高性能なウェザーステーションだと思った。



表示がすべて英語なので、主な表示項目に日本語のシール(テプラ)を貼っておいた。これで、5年の「天気の変化」はもちろん、理科室に来た子どもたちが、気象観測について興味を持ってくれるだろう。